

短歌を導入した日本語の教室活動

— 日本語のリズム感を身につけよう —

北島 徹

I はじめに

わたしは台湾の開南大学で日本語を教えて11年になります。その中で短歌を授業に導入することをしてきましたが、今回機会が与えられましたので、その方法と効果についてご紹介することにいたします。

なぜ短歌を導入するのか。それは台湾で日本語教育に携わっている間に、当たり前のことですが、台湾の学生が持っていることばのリズム感が日本人のそれとは違うことにあらためて気が付き、それぞれのリズム感はいつどこでどのようにして身についたのか、と考え始めたことに端を発しています。その結果、中国語話者には唐詩をはじめとする漢詩が、日本人には短歌、俳句等の定型詩が影響しているのではないかと思うようになりました。それは台湾と日本の小学1年生の教科書を比べて見ても感じるどころでした。

授業では初め短歌、俳句の読み聞かせから入りました。そして学生に音読させるところまで進んでいきましたが、はじめこそ興味を示して積極的に発音してくれていたものの、数回授業を続けるうちに飽きられてしまい、それ以上続けるということができない状態になってしまいました。聞いて読むということでは他の教科書と同じなので、新鮮味がないということなのでしょう。

そこで思い立ったのが実作ということでした。

以下にまず短歌とは何かについて触れた上で、実作の方法とそこから得られる効果について書くことにします。

II 短歌とは

形態： 五・七・五・七・七 （計三十一音）

日本の定型詩には短歌、俳句、川柳（せんりゅう）、旋頭歌（せどうか）などがあります。

俳句・川柳は五七五、旋頭歌は五七七五七七の形のもので。

五＝原則ひらがな五文字＝五拍。 （漢詩の五言は漢字五字で五拍）

七＝原則ひらがな七文字＝七拍。 （拗音「きゃ・きゅ・きょ」などは二文字で一拍）

文体： 口語体でも文語体でもよく、外来語を入れることも可能です。

内容： 自然（動物・植物・四季）や人事（恋・別れ・生老病死・生活・社会）に対する思いを歌にします。以下はその例です（例の歌は次項のものも含めて、会員のほとんどが台湾人である「台湾歌壇」の方々が作られた歌から挙げさせていただきました）。

a 季節・自然

芒（すすき）の穂風に揺られて身を伸ばし君も見てるの？ 十五夜の月
ほろほろと散りゆく桜世の中のはかないことを哀れむように
千切れ雲朝日を受けて輝けば山より野へと光駆け来る

b 恋

夏影を残す小道のせせらぎに君のことばを拾いつつ行く
我もほしや老いらくの恋夕焼けのやうに美しくやさしき恋を
熱烈な燃える恋文呑み込んでポストはぼくの人生を知る

c 生活

お隣のお皿の数をちらり見て見栄で争う回転寿司屋
ティッシュ噛む一歳次男に都度叫ぶ「ヤギじゃないのよ紙は食べるな」
たっぷりとパレットに絵の具絞りつけ故郷の山しみじみと描く

d 社会問題

日本人よへこたれないで悲しみの倍の喜び返ってくるまで
美しき大和の国の一日も早い復興ひたすら祈る
家もなく親無く子なき人思えば朝のコーヒー飲むをためらう

数え方： 全体 一首、二首と数える。（一句、二句と数えるのは俳句、川柳。）

部分 初句（第一句）・第二句・第三句・第四句・結句（第五句）

^{かみ}上の句（一～二句、または一～三句） ^{しも}下の句（三～五句、または四～五句）

表記： 漢字仮名（平仮名・片仮名）交じりで書く。仮名は旧仮名遣いか新仮名遣いのどちらかに統一する。句ごとの分かち書きをせず、一首全体を一行で書くのが原則。

用語： 区切れ 一首の中にある内容的な切れ目のこと。現在は基本的に初句切れを避ける。

字余り・字足らず 各句の音数が定型より多かかったり少なかったりすること。

初句の字余りは許容されるが、他の句ではなるべく避けた方がよい。特に字足らずは読んだときにリズムが狂うので極力さけた方がよい。

Ⅲ 短歌を学び、作ることの効果

学生・生徒たちが実際に短歌を作ると、次のような効果が期待できます。

- a 日本の言語や文化への関心が高まる
- b 日本語のリズム感が身につけられる
- c 言語による表現の楽しさが味わえる
- d 身の回りの人・自然・物・事を慈しみ大切に作る心が養われる

次の歌などには、人や自然、物に対する優しさがあふれています。

正月の雨疎ましきものなれど田は潤うと片や思えり
ベランダのここにも小さな命あり風に背伸びのピンクの花の
軽やかに揺れてやさしく和（なご）やかに歌う風鈴風のともだち

IV 短歌の実作

では、実際にどのように短歌は作られるのか。わたしが教室で行ってきた方法をご紹介します。

1 名詞を並べた歌

『万葉集』（日本最古の歌集。7～8世紀の歌が中心で4,500首ほどある）に次の歌があります。

はぎ おぼな くずばな なでしこ ふじぼかま おみなえし あさがお
萩の花 尾花 葛花 撫子の花 藤袴 また女郎花 朝顔の花

これは山上憶良（やまのうえのおくら）という人が次の歌と共に詠んだ歌です。

秋の野に咲きたる花を指折りかき数ふれば七種の花

（秋の野原に咲いている花を指を折って数えると七種の花だ）

秋の花の名前を次々あげて作った、とても素朴な歌（これは旋頭歌）です。

これと同じことをやってみます。

上の歌は花の名前を並べていますが、教室では学生・生徒たちの興味を考え、最初は食べ物がいいようです。

台湾のみんなが好きな食べ物をならべてみたら何が出るかな

こんな歌を先に用意して、これに答える歌を作ります。作るのにあたって、まず台湾料理であれば、それを教室でどんどん挙げてもらいます。それを教師は板書していきます。

小籠包 蚵仔煎 臭豆腐 餃子 牛肉麵 滷肉飯 酸辣湯 貢丸湯 猪脚 東坡肉
たくさんあればあるほどいいでしょう。次にこれらに振り仮名をつけます。平仮名でもカタカナでもかまいません。日本人の読み方を考えてつけます。

しょうろんぼう おあぜん しゅうどうふ ぎょうざ ぎゅうにくめん るうろうふあん

すわんらーたん こんわんたん とんそく とんぽーろー

続いてこれらを音数でまとめます。

3音 ぎょうざ

4音 おあぜん とんそく

5音 しゅうどうふ

6音 しょうろんぼう ぎゅうにくめん るうろうふあん こんわんたん とんぽーろー

7音 すわんらーたん

これらのうち5音のものと7音のものはそのまま短歌の5音句7音句に使うことができます。3音、4音のものは二つつなぐと7音になりますし、助詞などを付ければ5音や7音になります。6音のものも同様です。

ぎょうざおあぜん ぎょうざとんそく ぎょうざもあるし 計7音

おあぜんや とんそくと ぎゅうにくめんも これで5音7音になる

これらを組み合わせ、たとえば次のような歌を作ります。

水(すい) 餃子酸辣湯臭豆腐貢丸湯や滷肉飯も

蚵仔煎や酸辣湯臭豆腐餃子もうまい B級グルメ

二首目の歌は、名詞だけでなく少し別のことばも入れています。「B級グルメ」という表現もよく使われていますので、こういったことばも用意しておくといいかもしれません。

以上は食べ物、それも台湾料理での短歌の作り方でしたが、これ以外に、外国料理、日本料理、果物、お菓子などでも作ることができます。食文化を考える一つの機会にもなるのではないでしょうか。

完成した作品を載せておきます。

ハンバーグ キムチビビンバ スパゲッティ ドリアコロッケ ピザもあります(カレーもあるよ)

うどんそば さしみ天ぷら いくら丼 おでんたこ焼き お好み焼きも

チョコレート ポテトチップに ごまケーキ 抹茶キャラメル アイスクリーム

梨・蓮霧(なし・れんむ) スターフルーツ 桃・みかん バナナ・マンゴー パパイヤ・ライチ

2 一般短歌の作り方

上記の名詞を並べる短歌に慣れてきたところで、今度は短歌らしい短歌を作ってみます。これにもテーマが必要です。まずは「いい思い出」で作ってみます。

わたしは学生に「夏休みにどんなことがありましたか。なにが一番心に残っていますか」と尋ねて、短歌のテーマを決めさせました。一例を紹介します。

「サマープログラムに参加したこと」と学生が答えましたので、まずそれを板書します。次に、「それはどこでありましたか」と聞くと「御茶ノ水女子大学で」と答えましたので、それも板書します。続いて「どんな思い出がありますか」の質問に対しては「いろいろな他国人と会ってうれしかったです」と答えました。そこでその回答の中から名詞や動詞、形容詞をそれぞれ単語の形で板書します。「ほかにはありませんか」とさらに聞くと「別れるときは悲しかったです」と答えましたので、これも同様に板書しました。

黒板には次のようにことばが並びます。先ほどの名詞と同じようにこれらを仮名でも書いておきます。

サマープログラム

御茶ノ水女子大学 おちゃのみずじょしだいがく

他国人 たこくじん

出会い であい

楽しい たのしい

別れ わかれ

悲しい かなしい

これらを見ると、はじめの2語がかなり音節数の多いことがわかります。そこで、この2語については、もっと短い表現はできないかと質問して考えさせます。そこで出てきたのが

「夏研修・なつけんしゅう」と「お茶大・おちゃだい」でした。

これらを音節数でまとめます。

3音 であい わかれ

4音 おちゃだい たのしい かなしい

5音 たこくじん

6音 なつけんしゅう

これらを5音と7音にしてゆきます。3音のことばと4音のことばを組み合わせると7音になりますので、「出会い楽しい」と「別れ悲しい」は簡単にできます。あとは助詞を加えて5音7音にします。「お茶大の」「夏の研修」これも簡単でしょう。「他国人」はそのまま5音句として使えます。

これでできた5音のことばと7音のことばをならべてゆき、短歌の形にします。できあがった

のはこんな歌でした。

お茶大の夏の研修外国人出会い楽しい別れ悲しい
きれいになりました。しかし、ここでさらに「もっと短歌らしいものにしよう」と持ちかけます。短歌ではできるだけ心情を表す形容詞は使わないほうがよいと言われていますので、「楽しい」と「悲しい」を変えてみようと提案します。そうしておいて「楽しいというのはどうしてわかりますか。また悲しいというのはどうしてわかりますか」と質問します。すると「笑っている顔や泣いている顔を見たらわかります」と答えました。これで「笑い顔」や「泣き顔」が「楽しい」「悲しい」にかかわることばとして出てきました。しかしこれをそのまま使うと「出会いの笑い顔」「別れの泣き顔」となり、音数が合いません。それでさらに短くしてみようと持ちかけると「笑顔（えがお）」と「涙（なみだ）」が出てきました。これで先ほどの歌は次のものとなりました。

お茶大の夏の研修外国人出会いの笑顔別れの涙
いい歌ができあがりました。

「いい思い出」に対して、「悲しい思い出」が出るかもしれません。これも例をあげておきます。途中の作業は「いい思い出」の歌と同じですので割愛します。

おじいちゃん 死んだ日から 悲しい 部屋が広くなった 電気がついていない 優しい声も聞こえない

完成した作品

あの日から広くなったよ祖父の部屋明かりもないし優しい声も

V 短歌の音読

出来上がった作品を最後に音読します。最初に作った台湾料理の歌で音読のしかたを示すことにします。

わかりやすくするため、音楽の記号を用います。

水餃子酸辣湯臭豆腐貢丸湯や滷肉飯も

すいぎょうざ すわんらーたんしゅうどうふ こんわんたんや るーろーふあんも
♪♪ ♪ ♪♪ ♪ ♪♪ ♪ ♪♪ ♪ ♪♪ ♪ ♪♪ ♪ ♪♪ ♪ ♪♪ ♪ ♪♪ ♪ ♪♪ ♪ ♪♪ ♪ ♪♪ ♪ ♪♪ ♪ ♪♪ ♪ ♪♪

このように音読すると、先に作った歌の組み合わせで5音や7音にしたものが、実際に発音すると逆に組み合わせの方が響きがよくなることがあります。

うどんそば さしみ天ぷら いくら丼 おでんたこ焼き お好み焼きも
→ そばうどん 天ぷらさしみ いくら丼 たこ焼きおでん お好み焼きも

こうしておいて再度音読して、どの組み合わせが一番良いか、教室で意見をだしてもらうのもよいでしょう。わたし個人としては

そばうどん さしみ天ぷら いくら丼 おでんたこ焼き お好み焼きも
この形が落ち着くのですが、これは意見のわかれるところだと思います。とにかく実際に音読してみて、リズムを味わうことが大事だということです。

VI おわりに

以上、短歌を日本語の教室に導入する方法や効果について書いてきました。これは、2013年度第1回日本語巡回研修でお話したものを元に少し補足してまとめたものです。研修の場では白板を利用し、書いて話して説明をすることができたのですが、こうして書面で示そうとすると、思うように伝わらない恐れがあることを感じます。もしご不明な点やご意見、ご質問などがございましたら、お気軽にメールでお問い合わせください。

なお、一般的な短歌を作る作業では、知っていることばだけではうまくいかない場合がおこってくるものです。音数がどうしても合わない場合、別の類義語を使うということが必要になってきます。そんなときのために、教室には類語辞典を用意しておくといよいでしょう。わたしがいつも使っている類語辞典を下に書いておきます。

参考文献 『使い方のわかる類語例解辞典』小学館 1994.1.1 初版発行

北島徹 E-mail : kainankitto@gmail.com または yakamochi2516@yahoo.co.jp